

# 大宝山 蓮生寺の歴史

蓮生寺は、開基教秀法師が信州松本より天文五年（一五三六年）新天地開拓を志す当時の門徒二十余名と共に濃州井ノ口に移住し、岐阜明屋敷に庵をかまえたのが始まりです。その時、初代教秀法師と共に岐阜に移住してきた門徒の方々のうち、数人の子孫が現門徒として続いています。

開基教秀法師は、信濃国塚間群府中橋延の大宝山正行寺の二男で、この正行寺は源平の戦いの頃、寿永三年（一一八四年）宇治川の先陣争いで名を上げた源頼朝の家臣、佐々木四郎高綱が出家し、法名を了智と申し、親鸞聖人の仏弟子となり創建した大変由緒あるお寺で、現在も長野県松本市大手町に現存しています。永禄十年（一五六七年）織田信長岐阜入城の時、教秀法師を召出され十間四面の寺地を拝領し、寺号を欲生寺と致しました。

慶長五年（一六〇〇年）関が原の戦いで西軍について敗れた岐阜中納言秀信卿岐阜落去の際、家老の木造左衛門具政の岐阜屋敷を拝領し、その跡地が慶長十一年（一六〇六年）現在の寺地となり、今に木造町の地名を残しています。

三代目善通法師の代に至り、京都本願寺第十二代准如上人より寺号を蓮生寺と改名成し



木造阿弥陀如来立像

## 岐阜市指定重要文化財 木造阿弥陀如来立像

附関連文書二通

平成八年一月一日指定

阿弥陀如来立像は蓮生寺の本尊である。像高は九五・六㎝で、繪材を用いた奇木造の漆箔像である。肉髻珠、白毫は水晶からなる。像容は、顔を前に向け、偏衫に袈裟を着けて直立し、左手は垂下させ、掌を前にして下げ、第一、二指を合わせ、他は伸ばす。右手は肘を下にして前に屈し、掌を前に立てて、第一、二指を合わせ、他は伸ばす。

制作年代は鎌倉時代で、いわゆる安阿弥様の本格的なものであるが、両耳の耳朶、鼻先、両足先、光背、台座は後補である。

また、本尊に関しては、元禄一〇年の大仏師康雲による鑑定書が伝来している。これは、浄土真宗本願寺派の寺院として活動を開始するために必要とある、本山からの認可を受ける際の手続きの一部である。その様子が具体的にわかるという点で貴重な文書といえる。

平成一〇年三月

岐阜市教育委員会

下さりにこれより蓮生寺と号し、今に至っています。

本尊須弥壇にご安置してあります。本尊、木造阿弥陀如来立像は、江戸時代の大仏師康雲によつて、鎌倉時代の作であるとの鑑定書をくだされました。このご本尊は、平成八年（一九九六年）一部古文書と共に『岐阜市重要文化財』の指定を受けました。

創建以来四九〇余年の長い歴史を持つ蓮生寺には、天文五年（一五三六年）初代教秀法師が信州を出るとき背負ってきたであろう「阿弥陀如来絵像軸」及び「六字名号軸」をはじめ数々の寺宝があります。

これらは、天正十一年（慶長五年）の戦火、貞享三年（寛保三年）の歴史に残る岐阜大火に類焼し、近くは濃尾大震災に本堂、書院倒壊等、度重なる災害にも関わらず、先人が命にかえ、守り通してくださった寺宝であります。







## 年間行事のご案内

元旦(修正)会	1月 1日
報恩講法要	1月12日
仏壮物故会員追悼法要	2月中旬
仏婦物故会員追悼法要	2月中旬
特別永代経法要	3月と9月のお彼岸
初参式	5月 5日
大谷本廟(西大谷)参拝	5月下旬
盆会総永代経法要	8月12日
キッズサンガ	8月下旬
仏壮・仏婦報恩講法要	11月中旬
聞法のつどい	11月中旬
蓮華講	毎月第3日曜日



浄土真宗本願寺派

大宝山 蓮生寺

〒500-8086

岐阜市木造町10

電話 (058) 263-9892

FAX (058) 262-0254



旧本堂の鬼瓦